

琉球大学学術リポジトリ

外資系企業等の取扱い（対内調整)(1)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-01-31 キーワード (Ja): 在沖縄米系企業 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43429

三、(一) 内 部 考 核

極秘
まで
3 部の内
1号

事務局長
局長
副局長
在沖米企業問題

アサヒ局長
事務局長
副局長
米北一長

45. 8. 14

米北一

一時上京中の準備委員会事務局書記官
(通産出身、兼任) が13日米北一長に述べた

こと次のとおり。

1. (44年11月21日以前の) 米企業 ^(中) (整理)

自分としては全部 後戻り後も存続せざる
よう通産省上司に進言した。実体調査

の結果 本土法 ^(にあわせて) 若干の調整 ~~を~~ 課
したることになった。これは勿論である。私見

GA-5

1921

外務省

2

後戻りの段階で /
右の如く、^(後戻りの日付) 米企業と本土法に基く他次
(但し 後戻りの日付) を承認する

方法
の如くより ^(当初の意向) ではないかと思う。(当初の意向
に答へ) 明年5月頃 米政府から件名

に ^(上の措置が) 通産協定を米側と米側 ~~に~~
答へは前と、少くもその方針を

いふことを米側に伝えたことは出来るのではないか。

(なお 貴方共 同 書記官と 23 8月10日の在京
米大使館に対する アサヒ局長、事務局長の米側

アサヒ局長のコメントに つき 内容 (2) について)

2. 米大企業

現地 A 東京において 各方面 (通産
幹部、各会社 役員等) と自分から話合つた

GA-6

外務省

結果概要次の如き状況である。

(1) イツソ: 「E」社は中縄資本に株の10%
をもたせる案に断念し、日本企業(注
友、セネラル石油)と950-50に同意した。

(注: 13日 両角企業局長の大河原参事官
に對する内話に於て、「イツソ」が

「イツソ日本」でなく、米本土に直接の
進出を以てするに若干の問題が

あるが、50-50で妥協は片付く
と思われり由。)

(2) ガルフ: 三菱化成のありて、出光と9
50-50となつた。今後通産と9

商にアラビア石油の原油31取りを
他の条件を交渉して行く。

(注: 両角局長内話— ガルフが通産
の希望通り9条件に同意の旨

申出たこと、問題は收束
と思ふ。)

(3) アルコア: 中縄進出は依然未定9模
様。

(注: 両角局長内話— アルコアの語は
本東ガルフの進出と9関連で

出て来たもので、アルコア自体
は12熱意はない模様。本土

精煉五社の進出はアルコアの
進出に對する措置であるだけ

に、アルコアの進出が済んだ場合
実現するかどうか未だはつきりしない。

(4) フェアチャイルド：9月頃再び通巻と
話し合ふこととなる。

(注：13日赤沢重工業局長との内話一
に、米国の三大企業の一つとして

Matsushita の社長に先般来訪、
日本進出を要望し申請書を提出

出したと申した上で、MITI
としては、Fairchild と同様

取扱い。申請書を提出しても
許可はしない旨応答した。

(5) ナショナル・セミコンダクター：本社の業績
不振で、対沖縄進出を断念し

た模様。